

教育格差が顕在化する社会で、 子どもが自ら学びに向き合う力を

株式会社ベネッセホールディングス 代表取締役社長 COO
株式会社ベネッセコーポレーション 代表取締役社長

小林 仁氏



「建物のない学校をつくりたい」——創業者・福武哲彦のそんな思いから、当社の通信教育講座「進研ゼミ」は始まりました。ときに1969年。都会も田舎も関係なく、日本中の子どもに良質の学びを届けるものでした。その後、社会が豊かになるにつれて地域や所得による教育格差は減少していきましたが、近年になってふたたび顕在化。コロナ禍が、それに拍車をかけているように思われてなりません。

地方の高校入試では、少子化の影響で倍率が1を下回るケースも珍しくなくなってきました。かつてはそれぞれの学校の偏差値に応じて、同程度の学力を有する生徒が通学していましたが、入試における競争が失われてしまったために、同じ高校内でも学力に少なからぬ格差が生じているのが現状です。授業を展開し、学びを浸透させるのが、以前より困難な状況にあることは間違いないでしょう。

学校教育だけではなく、当社の進研ゼミでも全講座あわせて270万人程の会員がいらっしゃいますが、やはり学力の二極化の進行を強く実感するところです。そうした学力格差が目標意識や競争意識をさらに希薄化させていく中で、学校や塾のような強制力をもたない通信教育の現場では、子どもが自ら学びと向き合い、一人で頑張り切ることが非常に難しくなっています。だからこそ、一人ひとりにもっとしっかりフォーカスを合わせていかなければならない。個別の状況によりフィットした学びを支援することが求められているのです。

変化の激しい、不透明で不確実な未来を生き抜いていく上で欠かせない探究心や自己に対するメタ認知など、多様な力を涵養するためには、社会全体でそれに対応した教育システムを作りこんでいく必要があります。高等教育では経営が厳しく、特色ある教育に苦心していますが、高大接続においては、多面評価やより個性を重視した教育の連続性が担保されるべきではないでしょうか。当社は、「一步踏み出して成長したいと思った時にそばにいてほしい存在」であり続けたいと考えています。